

## 「和」と「絆」

新年明けましておめでとうございます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災の爪痕は深く、被災地では、気持ちの整理、切り替えがきかぬままに新年を迎える方も大勢おられることと思います。小林一茶ではありませんが、「めでたさも中くらいなり」の新春かもしれませぬ。

数年前からでしょうか、和風ブームの広がりとともに、「和」という漢字をよく目にするようになりました。「和」は、その一字で「日本（大和）」という国の意も表すことのできる不思議な漢字です。そして、聖徳太子の17条の憲法が「和を以って貴しと為す」で始まることに象徴されるように、「和」は、国民の結束力の基になるものとも言えます。

加えて大震災後は、「絆」という漢字を本当によく見かけます。「がんばろう日本」の掛け声とともに、新聞や雑誌の特集のテーマとしても幅広く使用されています。先日、高松市美術館で開催されていた書の展覧会では、「絆」を書いた高校生の自由作品が何点も並んでいました。また、アジア太平洋盆栽水石高松大会の法被<sup>はっぴ</sup>の背中には、書道家の金澤翔子さんが書いた力強い「絆」の文字があしらわれていました。多くの外国人参加者もそれを誇らしげに身にまとい、お互いの連帯感を強めました。

「絆」は、昨年の世相を表す漢字に選ばれましたし、新語・流行語大賞のトップテンにも入りました。大震災が人々に「絆」の大切さを再認識させ、復興に際しての日本全体の支援・協力の意識の高まりだけでなく、地域社会でのつながりを大切にしようとする動きや結婚に至るカップルの増加などの現象が見られた、とコメントされています。

「絆」の字は「ほだす」とも読まれ、つなぎとめる、自由を束縛する、という意味があります。決して内向きになるわけではありませんが、住み慣れた地域で人の情に絆<sup>ほだ</sup>されながら和<sup>なご</sup>やかに生活する。まさに大震災後の日本人が求めているものをこの二つの漢字に込めることができます。

「和」と「絆」。「コミュニティ」を再生し、復興を成し遂げるためにも常に大切にしておきたい心持ちです。